

北海道支部 令和2年度第1回都市地域セミナーの開催報告

ーリモートワーク時代の地方都市を考えるー

山下 昌彦 日本都市計画学会北海道支部 幹事

1. はじめに

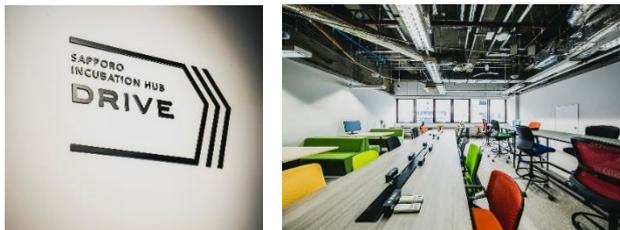
日本都市計画学会北海道支部では、令和2年10月28日(水)に今年度第1回目の都市地域セミナーとして、「リモートワーク時代の地方都市を考える」をテーマに取り上げ開催しましたので、その概要を報告します。

開催形式はオンライン配信とし、参加者は35名でした。今年7月札幌の中心部に開設したばかりのコワーキング・シェアオフィス『SAPPORO Incubation Hub DRIVE』(以下「DRIVE」)を軸に、各対談者の関わりや働き方、地方への繋がりづくりについて知見を披露していただくとともに、オンラインならではのチャット形式による質疑・意見交換を行い、理解や議論を深めました。

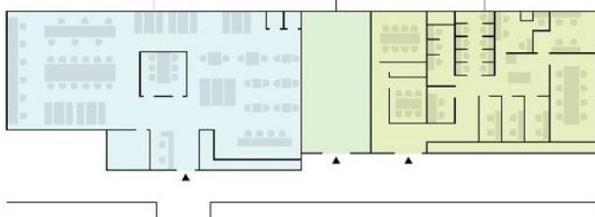
DRIVEは、札幌市の中心部、地下鉄「大通駅」徒歩3分に位置し、コワーキングスペース、シェアオフィス、イベントスペースを備えた北海道最大級のインキュベーション施設です。快適なワークプレイス機能の提供はもちろん、スタートアップやフリーランス、法人や自治体など多彩な人材の交流を促進し、新しい価値を創造する「拠点」を目指しています。

運営の特徴として「コミュニティマネージャー」を配置し、ビジネスで困ったことを聞きながらアドバイザーや他の利用者と繋げています。

▼SAPPORO Incubation Hub DRIVE (<https://sih-d.jp/>)



CO-WORKING SPACE EVENT PARK SHARE OFFICE



2. 対談1 「コワーキング・シェアオフィスの実態と可能性」

DRIVEの運営側、藤間 恭平氏(株式会社 D2 GARAGE ビジネスデベロップメントマネージャー)はスタートアップの育成事業のノウハウを東京から札幌に根付かせるため、DRIVEの立ち上げ・運営に携わっています。新型コロナウイルスの影響により、リモートワークの場を求めている利用が多いが、一方で当初の「集まって繋がる」コンセプトでの利用が少ないといいます。

利用者の大久保 徳彦氏(株式会社 POLAR SHORTCUT 代表取締役 CEO)は北海道・札幌エリアの成長産業の支援をテーマに、スタートアップ事業の創出などを手掛けています。DRIVEに来ることで札幌の面白い取組をしている人たちと繋がりがやすくなるといいます。

3. 対談2 「地方におけるリモートワークの可能性」

ビジネス上の繋がりが少ない地方では、リモートワークで色々な人と対話することが有効です。今後は、自治体との連携、北海道の1次産業・素材×ITの連携、物流との連携、観光まちづくりとの連携などを切り口に、DRIVEを始め札幌の拠点で新しい取り組みを生み出す文化を根付かせ、そこから地方に広げるべきと提言がありました。また、地方にコワーキングの拠点をつくるときは、外からのワーケーションの利用だけを期待するのではなく、地域の面白い人を巻き込み新しい事業を起こすことが重要で、地域に小規模なコミュニティとネットワークを作るためにも、コミュニティマネージャーの役割は重要ということでした。

4. おわりに

今回はコワーキングオフィスという拠点に焦点を当てましたが、新しい事業をやりたい人、その人たちをつなげる人の重要性を改めて認識した、大変有意義なセミナーでした。対談者をはじめご参加の皆様には厚く御礼申し上げます。

配信のようす

▼小松支部長挨拶



▲対談
(右) 藤間氏 (中) 大久保氏
(左) 窪田幹事：進行役